

IV 外国企業誘致のための基本戦略

対日投資の誘引力は、ソフトウェアの力、ハードウェアの力、そしてそれらのシナジーである。これらソフト・ハードの総合力をもって東京への投資を促進するため、アジアヘッドクォーター特区における取組とあわせて、対日投資促進とその契機となる外国企業に対する誘致活動として以下のような取組を進める。

1. 東京の魅力のPR

外国企業の従事者は、家族帯同で移住することが通常であり、外国企業が海外の拠点を選考するに当たっては、法人税等の経済的コストの問題だけでなく、従事者や家族の生活環境が整備されているかどうかも重要な判断要素となっている。

このため、東京は、アジアの他の諸都市と比べて、治安の面では安心でき、清潔な生活環境が高く評価されていること、高度な医療施設・医療技術、芸術、文化、スポーツ等の面でも、欧米の主要都市と変わりのない生活環境が確保できることを積極的にPRしていく。

2. 外国企業の掘り起こし

アジアの諸都市が外国企業誘致に向けて様々な施策を展開している中で、既に日本へ進出の意思を有する企業の相談を待っているだけでは、アジアの諸都市との都市間競争に勝ち抜き、東京に外国企業を誘致することはできない。海外企業誘致セミナー等を通じ、外国企業の東京への関心を高め、経営層にアジア地域におけるビジネス展開に当たって、当該地域を統括する拠点を設置する都市の候補地として東京を認知してもらい、新たな企業の掘り起こしを行う。

3. 国際規模のMICE、スポーツイベントの開催

国際会議や国際規模の展示会が東京で開催されれば、当該分野のトップを含む多くの海外参加者と我が国参加者が様々な形で交流する機会が生まれる。その場での情報交換はもとより、我が国企業や大学等の関係者と海外の企業経営者・研究者との間で新たな人的ネットワーク構築につながることを期待される。

また、こうして構築されたビジネス分野や研究分野の人的ネットワークは、ヒト・モノ・情報の国際的なネットワークの中での我が国の企業や研究開発機関の位置づけを拡大・強化し、新たなビジネス機会の創出やイノベーションの創出に資することが期待できる。

更に、国際規模のMICEやスポーツイベントの開催は、参加者を通じて、

都市の知名度アップやブランド価値の向上にもつながる。こうした都市のブランド力の向上は、外国企業誘致にとって有益であるのみならず、訪日外国人旅行客の拡大など、一般観光等の観点からも集客力の向上に資することが期待される。

このため、国際会議、アフターコンベンション等がある程度まとまったエリアで対応できるよう、MICE機能の充実を図る。

4. ビジネスマッチング

外国企業は、日本企業の有する高い技術力や要求レベルの高い消費者（市場）の存在について着目しており、日本へ進出した際のビジネスパートナーの発掘、販路の開拓等について支援を求めている。

日本が産業立国、技術立国としての地位を再び確固たるものにするためには、東京の産業集積、技術集積を生かした取り組みを積極的に展開し、産業都市としてのプレゼンスを高めることが必須である。東京には既に大田区をはじめとする産業技術集積地が多く存在し、世界産業の基幹的技術を支えており、この役割は将来の東京においても変わることはない。

日本の誇る高い技術力や産業ノウハウは、現在顕在化しているもののほかに、まだまだ地域の中で眠っているものが多く存在している。

こうした眠っている技術を含めた地域資源と海外企業ニーズをマッチングすることによって、新技術の「見える化」が促進され、新たな市場開拓につながるだけでなく、世界をリードする新しい技術へと成長させていく。また、羽田空港跡地という最高の立地性を存分にいかした産業交流、人的交流、技術交流を実施していくなど、誘致対象外国企業に対し、日本企業の優れた技術の紹介やそれらの企業とのマッチング等を行い、取引の機会の拡大を図る。

5. 対日投資促進の誘引力となる東京のポテンシャルの再認識

(1) ソフトウエア

1) 安全・安心

東京は、良好な治安を保っており、安全・安心なまちである。

例えば総合特区エリアを含む警察署管轄内では、殺人事件は年間10件程度、強制わいせつ事件認知件数は年間100件未満、ひったくり発生件数も年間100件未満となっている。夜間でも女性・こどもの一人歩きが可能な環境である。

また、交通事故についても、東京都全体でも人口10万人当たりの年間事故者数は1.6人と低い水準である。

総合特区エリアには、交番等が50箇所以上設置されており（平均し

て約700m四方あたりに1箇所の交番等がある。)、まちの安心・安全を支えている。

2) 快適性

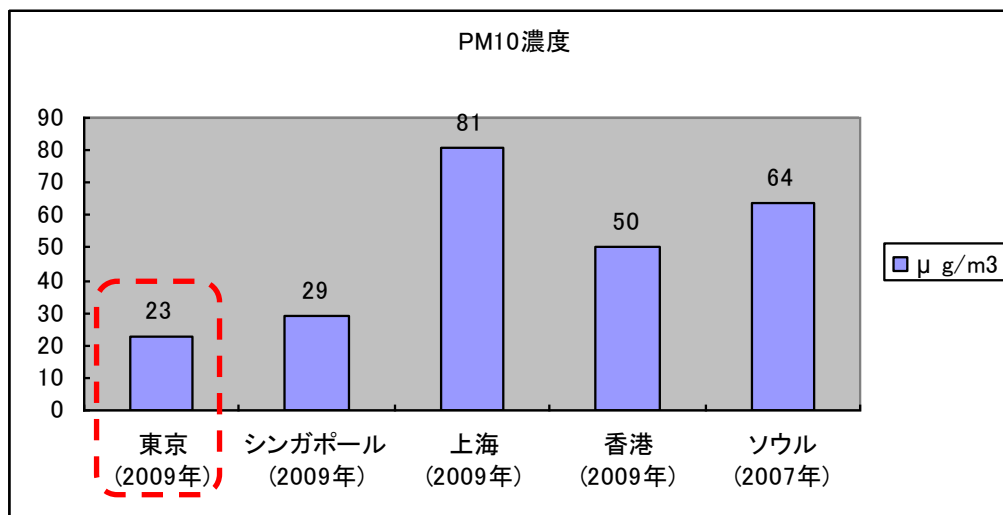
東京は、蛇口からそのまま飲める水道水ときれいな空気を享受できるという点で、アジアの諸都市と比べ圧倒的に快適な生活環境を有している。

日本は、蛇口から直接水道水を飲む世界でも数少ない国であるが、特に東京都では、高度浄水処理の導入や国よりも厳格な独自の水質基準の設定等を行っており、安全でおいしい水を安定的に供給している。

大気の汚染度を見ても、例えば大気中のPM10濃度は低く、アジアの主要都市と比較してかなり空気がきれいである。

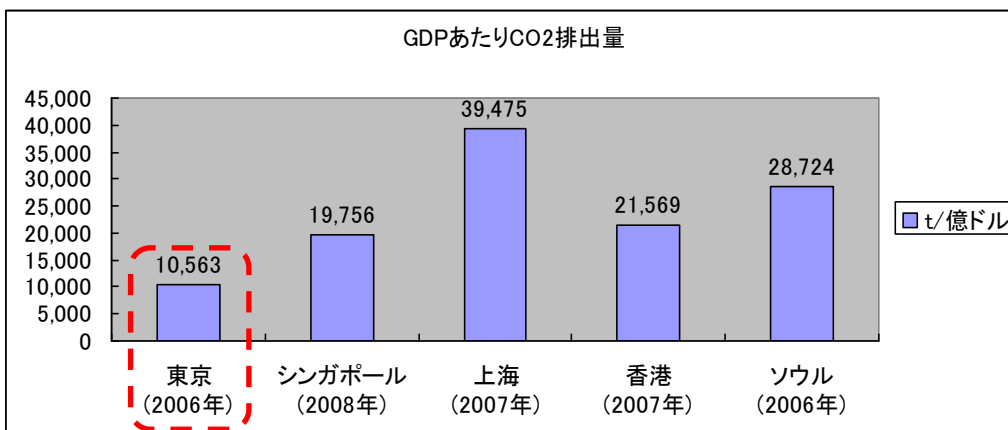
また、GDP当たりのCO2排出量も低く、地球温暖化防止にも貢献をしているなど、環境対策における先進都市である。

【図 15】 アジア各国のPM10 濃度比較



(出典) WHO「Tackling the global clean air challenge」

【図 16】 アジア各国のGDP 当たり CO2 排出量比較



(出典) 東京都「東京の都市力検討調査」

3) 利便性・効率性

総合特区エリアを含む区には、メガバンク系列のATMだけでも、927台設置されている。24時間営業のコンビニエンスストアも都内に5,409店舗（平成19年時点）あり、生活するうえでの利便性・効率性が高い。

また、東京（23区）では、外国自動車メーカーの新車販売トップ10すべてのメーカーの正規販売店が営業をしているほか、欧米ブランドの店舗や輸入食材を取り扱うスーパーマーケット等が都内で多数営業しており、欧米で生活しているのと同様の消費生活が可能である。

4) 高度な医療

総合特区エリアを含む区内には、特定機能病院及び救命救急センターなどハイクラスな医療提供施設が13施設集積しており、医療環境が充実している。都内で急患となった場合、救急隊の出動から現場到着するまでの時間は、平均7.2分（平成23年 東京消防庁）であり、救急医療体制も整備されている。

また、都内における出生1,000人当たりの新生児死亡率も0.9（シンガポール 2.0、香港 1.0、ソウル 2.2）と非常に低い水準である。

5) 教育

世界大学ランキング（英国の教育専門誌「タイムズ・ハイヤー・エデュケーション」が発表）において、東京大学はアジアでトップの30位にランクしている。

理工系大学院における留学生比率は10%前後であり、アジアの主要大学と比較して高い水準である。日本におけるトップクラスの大学で学んだこれらの留学生は、日本語や日本の社会・生活習慣等にもなじんでいることから、外国企業の日本における活動の担い手として活躍することが期待できる。

【主な理工系大学院の留学生比率】

早稲田大学：14%、東京大学：12%、東京工業大学：11%、慶應義塾大学：8%、ソウル国立大学：7%、高麗大学：4%、清華大学：2%、上海国立大学：1%
（出典）文部科学省 理工系大学院の教育に関する国際比較調査

6) 楽しみと文化

ミシュランガイドにおいて5つ星を獲得したホテルが東京には9つある（星を1つでも獲得したホテルは36）。また、飲食店でも星を獲得しているのは247店（特に日本食は163店）もある。

日本以外のアジアで唯一発行されている香港のミシュランガイドを見ると、星を獲得したホテルは15、飲食店は62店にとどまっている。

東京は、音楽や演劇などの芸術活動も盛んである。東京都内では8つのフルオーケストラが活動している。ウィーンフィル、ベルリンフィル等の超一流の演奏会が毎年開催されているほか、クラシックコンサート、オペラ、バレエ、ミュージカルの公演数は年間5,000本を超えている。

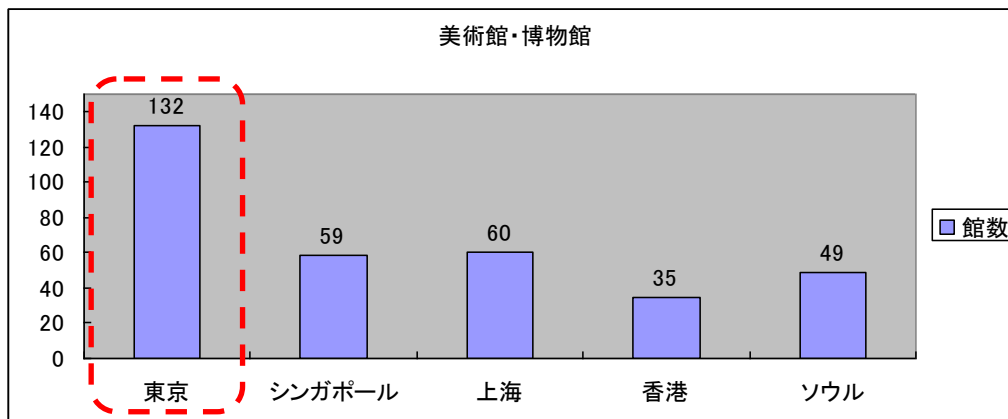
文化施設も充実している。東京都内には美術館・博物館が132施設もあり、アジアの主要都市を大きく上回っている。

たとえば、2012（平成24）年1年間だけでも、都内の美術館で、エルミタージュ美術館、ベルリン国立美術館、マウリッツハイス美術館、メトロポリタン美術館等の企画展が予定されているなど、超一流の芸術作品を鑑賞する機会にも恵まれている。

スポーツ観戦という面でも、サッカーのクラブチーム世界一を決めるFIFAクラブワールドカップ、東レパンパシフィックテニス、バレーボールの世界大会等、各種スポーツの世界大会を観戦することができる。

また、東京近郊にはレジャー施設も多い。車で1時間以内に到着できるゴルフ場が20箇所あるだけでなく、日帰りできるスキーリゾートや温泉は、アジアの主要都市と比べ圧倒的に多い。

【図 17】 アジア各諸都市の美術館・博物館数比較



（出典）東京都「東京の都市力検討調査」

【図 18】 アジア各諸都市の日帰りできるスキーリゾート・温泉地数比較

	スキーリゾート	温泉地
東京	32	240
シンガポール	1	1
上海	5	5
香港	0	0
ソウル	15	10

(東京都調べ)

(2) ハードウェア

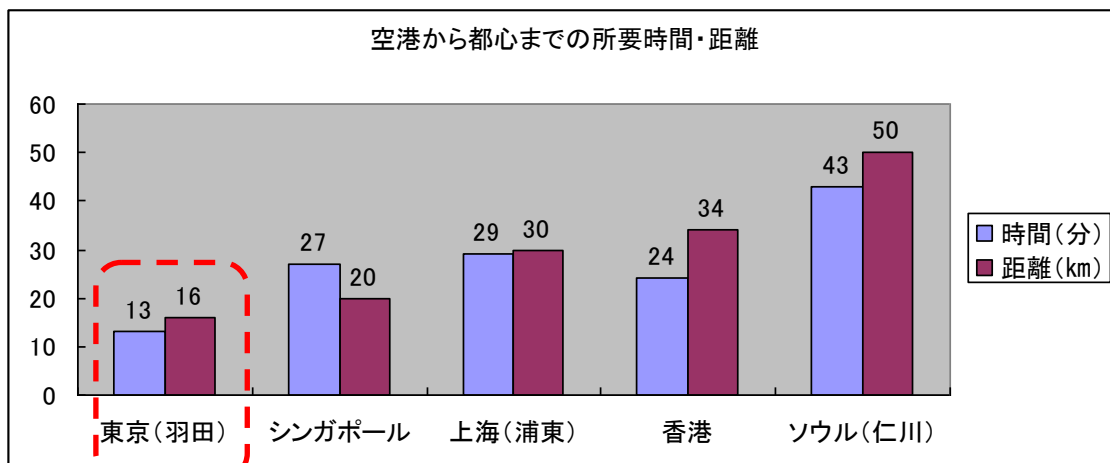
羽田空港から都心主要エリアまでの距離は約16kmで、公共交通機関による所要時間は最短で13分となっている。羽田空港はアジアの主要都市の空港と比較しても都心に近接した利便性の高い空港である。

なお、成田空港から東京（日暮里）までは約62kmあるが、所要時間は最短で36分となっている。

鉄道は、地下鉄15路線とJRの鉄道網が張り巡らされており、徒歩10分圏内に地下鉄・JRの駅がある。

その他にも、東日本大震災による強い揺れにも耐えた150m超の高さの超高層ビルが100棟以上存在し、都心部にはセントラルパーク 2倍に相当する700haの緑の空間があり、更に2020年までにサッカー場1,500面分の1,000haの緑が創出されるなど、居住環境も充実している。

【図 19】 アジア各諸都市の空港から都心までの所要時間・距離比較



(出典) 国土交通省「国土交通白書」(平成 20 年度版) 等により作成

(3) 総合効果

外国企業が海外に拠点を置くに当たっては、単純に税制等の経済的インセンティブだけで判断するのではなく、ビジネス環境、生活環境等を総合的に判断している。

したがって、外国企業誘致に当たっては、税制等の経済的インセンティブだけでアジア諸都市と競争するのではなく、ソフト・ハードの両面からの都市の総合力で勝負していくことが必要となる。

そのため、東京がアジアの諸都市と比較して優位性を有している、ソフトウェア、ハードウェアのポテンシャルを有機的に連携させ、都市の総合力としての東京の優位性をPRしていくことが必要である。

あわせて、都市の総合力を強化する観点から、どの強みをさらに延ばしていくか、どの弱点を克服していくかを判断していく必要がある。